

### 【総括】

社会貢献事業では、神奈川ボランティア基金21協働事業負担金事業、メリルリンチ寄付金プロジェクト、独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成プロジェクト、ジョンソン&ジョンソンプロジェクト、4つの事業を行った。

8つの児童養護施設と2つの母子生活支援施設でことばキャンプを実施した。(のべ113施設) 埼玉県の児童養護施設。東北の児童養護施設でことばキャンプを実施したり、静岡、千葉、群馬、大阪、長野の協働団体との提携をすすめるなど、地域的に活動が広がっている。

また、母子生活支援施設や里親子への支援と、児童養護施設にとどまらず社会的養護の子どもたちへの支援へと活動が広がっている。

自主事業として始めたインストラクター養成講座は、年3回(春、秋、冬)開催とほぼ軌道にのってきたといえる。また、各地にある教室の統一を図るための仕組みづくりに力を注いだ一年だった。1年間の猶予期間を経て、チケット制の導入、教材の統一等の浸透に向けて努力を続けてきた。ただ、教室の質の維持については、まだ十分とは言えず反省点として次年度に譲りたい。教室開校フォローの要望も多く、課題として残っている。

ジョンソン&ジョンソン事業の一環として、社会貢献部門のHPが新たに作成され、これまで11年の実績をまとめることができた。また、社員研修としての寄付金プログラムが始動する。

運営を担う事務の人材や事業を担う人材が増え、基盤を固める方向になっている。しかし事業規模が大きくなっていることを考えると、まだ運営を支える人材は十分とは言えない。

## 1 事業

### I WS 事業

#### ○助成金・補助金事業

#### ・神奈川県子ども家庭課との協働事業

- ①自立支援プログラム実施事業 小学生,中高生ことばキャンプ 4施設
- ②職員研修事業 2施設
- ③サポーター養成事業 4回
- ④効果検証事業 職員研修の効果検証

4年目になる本事業は、職員研修に重点を置き実施した。5年間の同事業が終了後、福祉職員向けコミュニケーション研修として商品化していく。

特筆すべきこととして、施設から依頼を受けて職員研修を中心としたコンサルを業務を行った。それにより、施設内の若手が中心となって自発的グループが結成され、職員間のコミュニケーション改善の取り組みが始まった。子どもたちの養育環境の改善にもつながる試みに協力することができた。

小学生でことばキャンプを受けた高校生たちが、自施設及び、別の施設でスタッフとして小学生をサポートする「支援される側から支援する側へ」の取り組みがさらに進んだ。また中学生が自施設の小学生を

スタッフとしてサポートする取組みも行った。

職員研修の効果検証については、実施前と後のアンケート実施、職員による園内発表、事後ヒアリングを行った。子ども向け QOL 尺度を用いた効果検証は継続して行っている。

#### ・メリルリンチ 社会貢献プロジェクト

- ① 埼玉県の子童養護施設 5 施設。それぞれ子ども 6 回、職員 2 回実施。
- ② 埼玉県の母子生活支援施設 2 施設 子ども 6 回、職員 2 回、親 2 回実施
- ③ ML 本社で社員ボランティアと共に、計 3 回フィールドトリップを実施
- ④ 報告書作成

2018 年度に行った埼玉県の児童養護施設及び母子生活支援施設のプロジェクトが終了し、報告書にまとめた。

今回のプロジェクトで埼玉県の児童養護施設、母子生活支援施設の実績ができ、関東圏での活動実績の地域が拡大した。また、母子生活支援施設での活動実績が増えたことで、社会的養護が必要な子ども達へのアプローチの幅をさらに広げることができた。

ML 本社で社員ボランティアと一緒に「フィールドトリップことばキャンプ」は、施設側からたくさんの方の参加希望のある人気プログラムとなっている。

このプロジェクトの全体を、リーダーが統括して行った。

#### ・独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成プロジェクト

- ① 福島県の被災者支援をしている NPO 法人ビーンズ福島とコラボして「絵本を使った指導者養成講座」を実施した。24 人の枠を用意していたが、申込みが殺到して断るほどだった。指導者養成講座への関心の高さと共に、地元で活動実績のある NPO 法人の協力が大きかったことが要因として考えられる。今後、福島との団体ともつながり、協力体制が定着していくことを期待したい。
- ② 東北の児童養護施設いわき育英舎で、小学生を対象にしたフルプログラム（6 回）と職員研修（2 回）を行った。神奈川県に在所している高校生が、スタッフとしてサポートした。
- ③ 研究会の実施と報告書の作成

7 回目になる、児童養護施設職員や関係者を対象にした研究会を実施した。今年度も、施設を卒業して働いている若者に登壇してもらい、座談会を行った。体験者ならではの本音が聞けて好評だった。

#### ・その他

##### ゴールドマン・サックス CTW

ゴールドマン・サックス社の社員が子供達と一緒にワークをすることで支援するプログラム。

- ① コミュニティスペースおさん

むつみの木が主体となっており、近隣の母子支援施設（むつみ）の子供達の参加があった。

- ② 六本木本社

すでにことばキャンプを体験したことのある施設の子どもたちを集め、ゴールドマン・サックス本社でのことばキャンプ。初めて会う大人とワークする実践的なコミュニケーションプログラムとして、施設側からの参加希望が多い。社員ボランティアも複数回の参加が多く定着している。

## 福祉職員研修（県の研修）

神奈川県療育医療センターから、神奈川県全域の福祉施設職員向け研修の依頼を受け、研修を実施した。県内職員研修として2年目になり、今後定着する可能性がある。

### ○自主事業

#### ・ことばキャンプ教室

本部運営の教室として、馬車道教室（2講師）、新宿教室、田町教室を運営している。低学年クラス、高学年クラスを基本とし、年長児クラス、中高生クラスとプログラムの充実を図っている。

本部外の教室ではそれぞれの地域でユーザーの課題感に真摯に寄り添い実績を上げている。中には3ヶ所の地域で教室を運営している講師もでており、よりスキルアップのフォローが必要と思われる。

親講座の導入、コース制への移行期間でもあった為、各講師の実情を大切にしながら進めてきた。

本部HPへの問い合わせや申し込み数は増えているが、地域性もあり集客に困り感を持っている講師も多く、より補強が必要と思われる。

本部教室以外のユーザー数の把握もできておらず、キャンペーンなどに生かせないので運営スタッフの拡充も急務である。

親講座は、親講座だけを希望する受講者の問い合わせがあったり、未就学児や低学年の親の関心度は高いが、高学年や中学生と学年が高くなるにつれて希望が少なくなる傾向にあることがわかってきた。ニーズに合わせた見直しが必要と思われる。

## II 人材育成事業

### ○助成金・補助金事業

#### ・ジョンソン&ジョンソンプロジェクト

「ことばキャンプ」インストラクター養成プロジェクト～全国の児童養護施設への展開にむけて～

2年目の年。本年度は、千葉、大阪、長野、浜松、群馬の5つの協働団体のメンバーを対象にした養成講座を6-7月（全6回）に実施し、10名のインストラクターが誕生した。11-12月（全4回）に、児童養護施設で活動できる advance の養成講座を行った。本事業で資格を取得したインストラクターと、今まで教室を展開しているインストラクター合わせて12名が受講した。2-3月（全4回）に大阪でも advance 養成講座を実施し4名が受講した。

ジョンソン&ジョンソン事業の一環として、社会貢献部門のHPを新たに作成した。

<https://www.jam-network.net/>

これまで11年の社会貢献事業の実績をまとめると共に、企業へ4つの支援方法①ファミリースマイルプログラム②フィールドトリップ③お部屋貸し④寄付を掲載した。特に①は、子育て中の社員研修として実施し、その研修費は社会的養護の子どもたちへの支援となる新しい形の寄付金プログラムである。同プログラムの実施について、ジョンソン&ジョンソン社のコンサルを受けた。

## ○自主事業

養成講座の説明会を毎月、オンラインで開催した。ホームページから受け付けており、常時4～5人の参加希望者があり、関心の高まりを感じている。

### ・インストラクター養成講座

5～7月、9～11月、2019年1～3月と、本年度は3回、インストラクター養成講座を実施し、8名が認定を受けた。教室開校への本部協力の要望も多く、課題としていきたい。教室開校後の質の維持を図るためのフォロー体制についても検討が必要だ。

社会貢献事業が拡大していること、またことばキャンプ教室への問い合わせが増えていることから、講師養成が引き続き課題である。

### ・絵本ファシリテーター養成講座

絵本を教材にした講座を開催し、6名が絵本ファシリテーターとなった。

## Ⅲ リサーチ事業

なし

## Ⅳ 情報発信

なし

## 2 管理部門

運営、管理、営業他：高取、菅澤 獅子倉

会計、事務：前園、中嶋

プロジェクト運営：大野

メルマガ：高取

<外部>

税理士：本郷順子氏

コンサル：望月氏（月2回コンサル）

司法書士 塚原先生（単発契約）

HP制作、SNS相談：オフィスジータ

映像制作：末吉氏

2018年度は、組織運営、社会貢献事業の遂行、インストラクター養成講座の開催、教室運営の整備など、業務がさらに増えた。それに伴い、会計庶務、事務として2名、運営執行部も3名と人員が増えた。施設の高校生が、事務所のアルバイトとしてきてくれた

大きなプロジェクトを年間を通して担当する、プロジェクトリーダーの育成も進んでいる。

しかし業務量に比べてまだマンパワーが足りないので、引き続きこの点を改善していく。

ことばキャンプ教室の集客が大きな課題であることに変わりはない。メルマガの配信、出版セミナーを通じて「ことばキャンプ」ブランドの確立、社会的認知をさらに図りたい。